

絵図とはなにか

絵図にはなにが描かれているの？

城陽市内には、昔の古い文書類がたくさん残されています。それらは、歴史民俗資料館だけでなく、寺社や自治会や個人の家で大切に保管されています。そしてその文書の中には、地域の様子を図に表した絵図がたくさん含まれています。

それらの絵図は、様々な目的を持って作成されており、絵図をよく見るとその時代の村の景観や作物や災害、隣村との関係など、村の社会・人々の生活そのものが表れています。

ここでは、今回展示する絵図の中から、興味深い事物が描かれている部分を紹介합니다。展示室で実際の絵図を見て、これらがどんな絵図のどこに描かれているのか探してみてください。



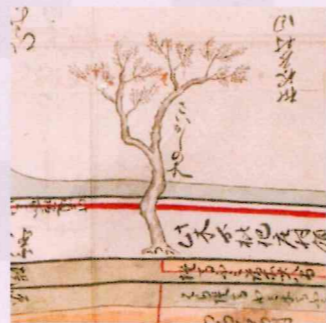
上津屋村全図
江戸時代
個人蔵



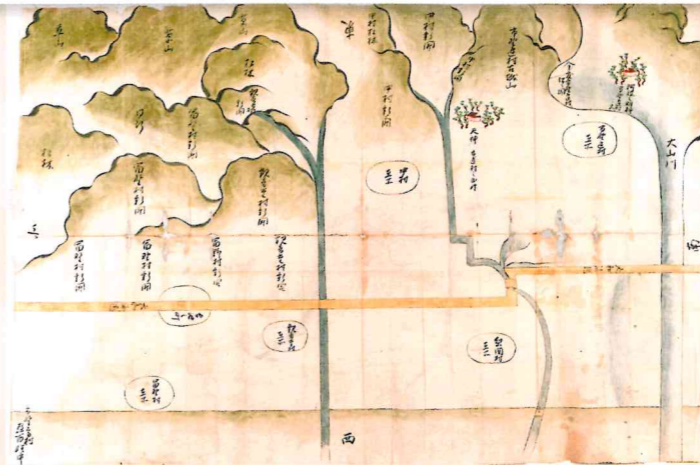
山城国水系図
享保年間
京都府立京都学・歴史館蔵



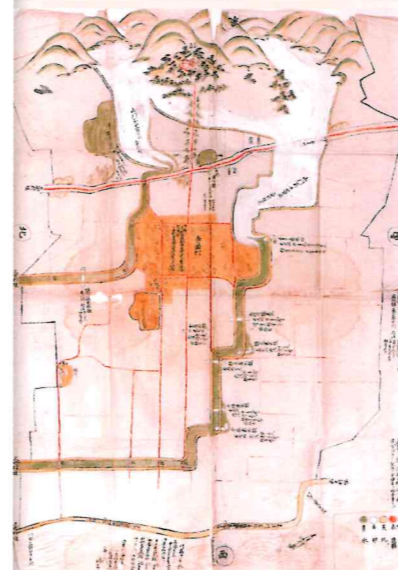
五カ村立会山論関係絵図
享保3年(1718年)
市辺自治会蔵



水主村・枇杷庄村境争論裁許絵図
元禄11年(1698年)
枇杷庄自治会蔵



総山之絵
江戸時代前半
個人蔵

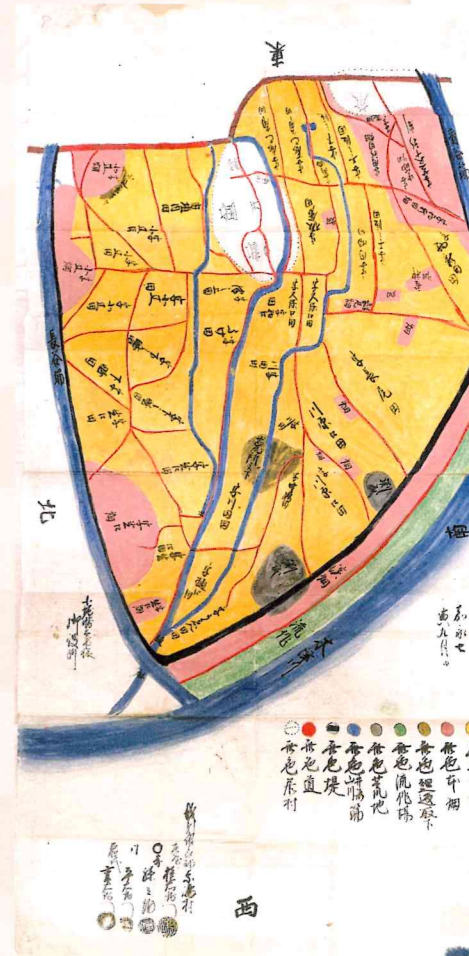


寺田村川筋等絵図
正徳2年(1712年)
個人蔵

様々な絵図

絵図はなぜ作られたのでしょうか？

村の土地がどのように利用されているかを把握するため、山の開発を巡って村同士で起こった争いを解決するため、村内の川や水路の様子を報告するため…。ちょうど今の私たちの仕事や生活に写真による記録が欠かせないように、村の生活のあらゆる場面で絵図は作られました。展示ではそれらの様々な絵図を紹介します。



奈島村耕地畑田畑仕訳絵図
嘉永7年(1854年)
奈島自治会蔵



「實測輿地圖 第一、第二、第三」(伊能小図)ゼンリンミュージアム蔵・提供

伊能忠敬と城陽

伊能忠敬と城陽市域との関わりは？

江戸時代に全国を測量して詳細な地図を作成した伊能忠敬は、城陽市域にも立ち寄っています。この展示では市内に残る関連資料とともに、伊能大図、中図の城陽市域が描かれている部分と、令和3年度に新たに発見された伊能小図(ゼンリンミュージアム所蔵)もパネルでご紹介します。



伊能忠敬像(部分)
伊能忠敬記念館蔵・提供

一閑張望遠鏡 文政7年(1824年)

伊能忠敬は経度測定に大坂貝塚の岩橋善兵衛製作の望遠鏡を使用しました。この特別展では参考資料として当館所蔵の岩橋家製作の望遠鏡も展示します。



【重文】「大日本沿海輿地図」(伊能中図)中部・近畿(部分)
東京国立博物館蔵・提供 Image:TNM Image Archives